明治三十年三月十八日印刷
明治三十年三月二十日發行

婦人衛生雜誌

第八拾八號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第八拾八號
目次

講演

◉生理解剖學講義（第九回）　醫學博士　坪井次郎君

衛生叢談

◉月經時の注意
◉婦女子に運動を勸告す
◉衛生小言數件
◉乳汁に就ての注意
◉肉の中毒に就て
◉小兒の入浴に就て
◉妊婦攝生法
◉婦人病數件
◉新潟支會記事
講演齒石
大日本婦人衛生會新潟支會
新潟支會の無料種痘
◉大日本婦人衛生會記事
總會
◉廣告數件

大日本婦人衛生雜誌
第八拾七號
目次

講演

◉日本在來火鉢の衛生利害に就て　藥學士　丹波敬三君

衛生叢談

◉乳母のえらみかた◉犬に接近する爲めに起る諸疾病◉衣服の事◉乳呑子ある母幷に乳母に一言を呈す◉人造葡萄酒の害◉產褥養生法◉種痘强制の警視廳令◉三府四港の天然痘◉印度慘狀◉種痘に就ての注意◉天然痘彙報◉種痘經過中の心得◉黑死病の媒介物◉大日本婦人衛生會記事◉廣告數件

●例會通知

來四月三日（第一土曜日）午後一時より麴町區內山下町華族會館に於て例會相開き左記先生の講演有之候間萬障御繰合御親虞御知友御誘合ひ御來會有之度候也

演題　　講師

一生理解剖學講義　　醫學博士　坪井次郎君

一演題未定　　ドクトル　金杉英五郎君

明治卅年三月二十日

私立大日本婦人衞生會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第八拾八號（明治三十年三月二十日發行）

講演

生理解剖學講義（第九回）

醫學博士　坪井次郎君　演説

私は誠に御無沙汰を致しまして、何とも申譯が御座いませぬ爾今引續ひて解剖と生理の講義を致します、今日は骨の御話をするつもりでございます。

骨に就ては主に解剖の御話をするので、生理に就ては申上ぐる事は少なくあります、ソレのみならず解剖の講義中でも殊に骨の事は面白味が少なくつまらぬ様に思召されませうが、暫時御清聽を願ひます。骨の系統に屬しまするものは身體中の諸骨と之を結合する處の靭帯との二ッであります。靭帯と云ふものは、極めて彈力に富みたる組織にて骨と骨とを接續せしむるもので御座います爰に私が持ッて參りました骨格の説明を致しますが骨は曝しましてかくの如く永久保存することが出來ますが靭帯は腐敗しますから、着けて置くことは出來ませぬ故除いて仕舞ひまして後から摸造するので御座います。

御承知の通り骨は人體中に於ても最も堅牢の部分にて其形體より言ふも、長短厚薄の差が有りまして隨分不規則の形狀のもので有ります。偖骨の組織はドウ云ふ工合になッて居るかと云ふに、第一に外部と内部と異ッて居ります。便ち外部は組織緻密にして堅牢なり、之に反して内部は殆ど海綿

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のやうな粗造の質より成立ッて居ります、固骨と云ふものは其目的は、身體を維持するに在るので勿論堅牢なる質でなければなりません併ながら骨質が悉く固いものより成立つときは重過ぎる故周圍即ち外部は堅牢にして、內部は成るべく輕く恰も海綿の樣になッて居るのでございます。

骨の堅牢なる部分を薄く削りまして、殆ど透明になるやうにして顯微鏡に照して見ると、細小なる穴が澤山在る而して其穴より骨の營養分を送る樣になッて居ります。

其他骨の周圍には一枚の膜があります之を骨膜と名けます骨膜には神經と脈管が有ります、此骨膜から、曩に申した骨の穴に脈管及神經が連絡して、而して骨を養ッて居ります。

骨は如何なる成分を含んで居るかと云ふに、有機質と無機質から成立ッて居る、即ち骨を堅くする爲めに灰分が餘計に這入ッて居ります、併ながらソレばかりでは堅く成り過ぎて脆くなりますから有機質を雜へて、堅い間に一定の彈力が有ッて多少曲ッても折れない樣になッて居ります。果して骨が灰分と有機質とより成立ッて居るに相違ないかと云ふことを知らんと欲せば、容易に試驗をする事が出來る。先づ骨を酸類即ち鹽酸等の中に漬けて置くと、其酸の爲めに骨の中の灰分が漸々溶解して、竟に骨の中に灰分は全く無くなッて有機分だけが殘る。爾うすると堅牢なりし骨は柔軟の物と變じて、恰も飴の樣に自在に曲るやうになります。ソレに反して此骨を火の中に投じて燃燒しますると、有機分が燃えて、あとに灰だけが殘る而するところの骨は脆くなッて甚だ折れ易い、何故

かと云ふに有機分が無くなッて灰分だけ殘るからである或は骨を水の中で長く煮ると有機質が出て仕舞ひますから、矢張り灰分だけ殘ッて脆いものになります骨を煮ると其中に含まれて居る有機分は膠となッて出て仕舞うので有ります假令ば魚肉などを煮ましてソレが冷えまするど煮凍が出來る彼の煮凍と云ふは即ち膠で、膠が冷えると凝結するので有ります。

斯樣に骨の中には灰分と有機分とが含まれて居る此二成分が適宜に調合されて居る故、骨が適宜に堅くなッて身體を支持する事が出來、若し其外部より著しき打撲を受けても容易に折れざるやうに充分彈力をも具へて居るので御座います。此有機分と灰分との割合と云ふものは毎に同じものでなければならぬ、有機分が多く灰分が少なく、或は灰分が多過ぎて有機分が少なくても往けませぬ何故と云ふに若し生活間に或原因に由ッて骨の中の有機分が減じて分灰だけが多くなると、其骨は脆くなッて折れ易い、ソレに反して骨の中の灰分が少なく有機分が多いと則ち骨は軟弱にして、身體を維持する事が出來ぬ樣になります。胎生の間は身體中の骨の中に灰分が少しも無いときが有る生れて來ると最早骨は多少灰分を含んで居ッて堅くはなッて居るが、併ながら成人の樣に堅牢ではありません小兒の骨に灰分が少なく有機分が多いのは一方から見ると、大へんに都合の好いことであるソレは有機分が多いと外から毆打されても高い場所より轉げ落ちても大人の樣に甚だしき害は無い此點を以て見ますれば大に都合が宜いが、又他の一方より見れば子供の中に体位を不正にしま

すると骨が軟かい故、習慣となッて其不正の形體を成長の後までも遺す樣な事が有る。ソレ故に父母幷に傍らに附き添ふ人々は、餘程能く注意すべき點と思ひます、例令は兒童が學校に往ッて腰掛に倚ッて、勉强する時に、腰掛の構造の不完全なるが爲め左右の脚がぶら下がる樣な事が有ると、自然脚の骨が曲ッて來る、而して竟に曲ッた儘に固ッて大人になッても脚部の形がをかしくなッて居ります。申すまでもなく日本と西洋とは風俗が違ひまして、西洋人は必ず居常倚子に腰を掛けて居るが、日本人は常に坐して居る故關節其他に無理をしまする故、多少骨の形狀が違はなければならない。日本人の脚は曲ッて居るのが多いと云ふ事で有りますが、原因は取調べなければ解らぬが或は此坐ッて居る習慣が原因の一ッなるやも知れない。其他骨格の固まらない子供に勞働をさせ、或は重荷を脊負はせ、或は車を輓かせなどしますると、爲めに骨格を變ずる恐れが有ります。殊に婦人は餘程能く注意して骨盤を正しくしなければなりません若も婦人が脊或は其他の部分に重い荷を負ひまするも骨盤を壓しまして其形狀を變ずる恐れが有ります、骨盤の形狀が變じて居ると、出産の時に大なる困難を來たす事が御座います。

以上述べましたのは骨が充分發育しないで、灰分が少なく有機分の多いときの事を申したのですが併しながら一度成長して充分灰分を其中に含む樣になると、容易に骨の形狀は變るものではない、然るに漸く年を重ねて老人になると從ッて骨の成分に變化を呈しますその時には子供のときとは全く反對になッて、灰分の方が殖えて有機分が少なく

あります。則ち曩に試驗の御話で御了解になッて居りませうが、灰分の多い骨は脆くあります故に老人に於ては餘程大事に骨を取扱はないと折れる恐れがあります、骨は無論打撲に因ッて折れるが常でありますがソレのみならず老人に於ては歩行中に折れる事が有る。ドウして折れるかと云ふに歩行は重量ある軀体を兩脚にて支ゆるのである然るに若下肢骨に灰分が多く有機分が少なければからだの重量で折れるのは寧ろ當前の話といッて宜しい。

關節の部位には堅い骨と骨との摩擦が烈しくならぬ爲め、且つは骨の運動を容易ならしむる爲めに特別の物質が有る之を名けて軟骨と云ひます、軟骨は必ず骨と骨との間に在ッて運動を扶けます、軟骨は灰分がなく、有機分よりなります恰も骨と骨との間に枕をして居る様で極く都合が好い。其他外耳の如きは軟骨ばかりで成立ッて居る、ソレ故に骨でありながら自由に動かすことが出來るので有ります又咽喉の部分にも軟骨が御座います併ながら軟骨は硬い骨から比べると至ッて少なくして、多くは關節の部分に主に在るのです。

全身の骨を連續致しました狀態を名けて骨格と云ふ、玆に置きましたのは人間の骨格を曝しまして人工に金屬線を以て纒めましたもので、全身の骨の數は大人に於ては二百個程有ります則ち頭骨八枚顔面骨十四個、脊髓柱骨二十六個より成立ッて居ります。脊柱の兩側に十二對の肋骨があります肋骨は脊柱より出でゝ胸骨に接續して居る、上肢骨は三十二個下肢骨は三十一個宛あります其他耳の中に小骨が三ッ宛ありますが是れは通常畧し

て數の中に入れませぬ。又齒は骨の樣に見ゐるが實際は骨では無い故。其中には入らぬものと御記臆を願いたい。

靭帶は割合に薄い膜で有ります。關節の運動は、處に由ッて違ひます。例えば一番能く運動の出來まするのは肩の關節であります更に骨の抵抗するものが無い、加ふるに靭帶も亦緩く附いて居る故上下前後思ふ儘に動すことが出來ます。ソレに反して膝の如きは但屈伸だけて有ります、何故かと云ふに骨が衝突する故外の運動を為す事が出來ない、靭帶も通常關節に固着し其運動を制限して居ります。然れども或習慣に固ッて、關節を延ばし骨と骨との運動を餘程自由にすることが出來ます世に角兵衛獅子と云ふものが有る、彼れは如何にして色々に身体の位地を保つ事が出來るかと云ふに習慣に因ッて靭帶を延はすからであります。

ソレから病理的の事を一言して置きますが、關節と云ふものは誠に好い工合に出來て居るので有りますが、暴力に依り關節の靭帶が破れ骨の端が關節外に出て仕舞ふ事がある之を脫臼と云ふ、併しから治療で元の位地に復することが出來ます。或は暴力に依り脫臼が起らずして骨が折れる事がある之を骨傷と云ふ、是れも醫師が骨と骨との折れ口を舊の處に治めて此狀態に維持し繃帶を施して置きまするど骨の折れ口が接續して、舊の通りに恢復します、小兒若くは中年の者の骨傷は、容易に治することが出來ます。ソレに反して老人は一度骨傷に陷りますと之を治する事は出來難くあります、ト申すのは小兒幷に中年の者は、有機物か適宜に含まれてありますから、一度折れても好い

工合に附着致しますが、老人の骨は灰分が多くて有機分が少ない故折れた以上は宜い工合に接續することはむづかしい、然も老人の骨は折れ易くして治し難いので有ますから深く注意すべきことであります

骨が緻密に接續して居て運動を要せざる所には關節はありません輙ち頭骨の如きは些しも動く必要が有りませぬから恰も鋸の歯を合せたる如く骨と骨とが密着して居ります

（以下次號）

衛生叢談

◉月經時の注意

婦人月經時を輕しく見做し不攝生の行爲をなすは自から疾病を釀す原因を求むるに外ならず而して此不攝生を致すに種々の原因あり或は少しも其害あるを知らずして顧みざるものあり或は之れを知るも念頭に置かずして過すものあり而して斯の如く不攝生を行なへば多くは月經不順となり或は子宮內膜炎（子宮の內部を被覆ふ粘膜の疾患）等に罹り終に不治の疾を起すに至るべし蓋し月經時に於ては子宮及び卵巢は著しく腫脹て既に成熟したる卵の腹膜の一部分を破りその卵巢を脫出するの際には神經機能頗る過敏となる者なるが故に最も攝生に注意せざるべからざるの時なり然るに之れを顧みず舟車に乘し身体を動搖し薄き衣服を着け風雨寒冷を冒して外出し甚しきに至りては劇場に入り終日其身体を冷やし且精神を疲勞せしめ又は腹部を壓迫するが如き勞力を爲し恬として顧みざるは實に憐むべきの極と云ふべし加

之出血を止むるは多くは紙類を用ふるは危險あり清淨ある白紙を用ふるの婦人は尙は少しく恕すべしと雖とも舊き紙淺艸紙、元結漉又は襤褸を仕用するものに至りては大に戒むべきの事なり之れ亦疾患を招くの一原因とあるものあれば總て空中に存在する物体は悉く空氣より取り圍まれおることは既に知る所あり而して空氣は諸々の塵埃及ひ病を起すへき有機物等を含有するが故に月經の際止血に用ふる舊紙等に其有機物附着しあるを知らず之を用ふれば容易に疾患を起すをうべし故に成るべくは淸潔ある物質を以て之れに代ふるを佳とす其物質は(即ち脫脂綿)藥舖にあるなり之を程よく切りガーゼ(同前)と云ふ薄き布に包み球狀になし一度に三四個を以て膣中に充塞れ時々交換せば最も安全と云ふべし記者嘗て歐州婦人の月經時止血する法を聞けり之れ本邦人には爲しがたき事なれば唯參考にのみ供せんとす

歐婦月經の時止血するは海綿を以てす即ち海綿の軟なるものを撰み之れを曹達水に浸し置き出して后之れを細切し鎚を以て靜に打ち最も軟くなりたるものを集め再ひ曹達水中に煮沸しガーゼを以て胡桃大に包み糸を付け以て膣中に插入すと兎に角清淨ある物質を以て止血し衣服を重ねて體を護り子宮を安靜に保ち(子宮は月經の際には充血すると甚しければ運動を避くると肝要なり)寒冷又は濕氣ある場所を避け心痛を放棄くべし殊に体質虛弱にして常に深窓に生活し寒氣等に慣れざる婦人は頗る注意を要すべし

◉婦女子に運動を勸告す

新鮮ある空氣を吸入し幷に體軀を運動せしむるこ

とは男女共缺く可らざる攝生法あり若し之れを缺けば主もに血液の變調を來たし爲めに筋肉及び神經系統の弛緩を致すべし抑々歐州婦人の日常生活を鑒るに婦女子自ら或は乘馬し或は乘舟し自ら手綱を採り又櫓楫を操り其他種々體操に似たる遊戲を致すの風俗ありと雖も本邦に於ては古來の習慣に於て之れを爲す者甚だ稀なし就中都市に住居する貴女淑孃の如きは會々外出するも馬車或は人車に乘り實に一週間中自ら歩行するは殆んど一里位より多からずとなす斯く體操の極て減少せし原因は第一古來の習慣の由て貴女の如きは筋肉を勞する遊戲及び事に奔走するは其品位を卑下するものと認め第二婦女子は常に靜粛を守り成るべく深窓に在りて安靜の居動をなすが爲めなり婦女子にして戶外運動等をなすものは却て之を忌み嫌ひ男子の所行と蔑視するもの多し故に意を慰むるの遊戲法は或は音樂を以てし或は書畫を弄する等凡て安靜輕微の事業を採ることを相當とし時間を限りて一定の運動法を設る等は特別に醫師の命に非ざれば行はず否醫師の命なるも之を守らざる者多し故に婦女子は精神の伸暢する時なく爲めに体質虛弱なり百般の疾病を誘發するに至る就中食物胃中に停滯し消化不良を來たし又は便秘等を起し日々困苦を感ずる人實に多しとす運動適度にして健康なる人は凡そ二十四時即ち一日に一回の便通を定則となす（但し幼時より習慣となり二日又は三日又は四日に一回の便通あるか或は一日に二回乃至三回の便通ありて健全なる人もなり）然れとも一日一回便通あるも其量輕少なれば便秘の症狀を起すものとす便量は實に食物の分量及び性質幷に

有機物等に大なる關係あるものなり而して常に田野に在りて植物性食物を平常食ひし人急に肉食に變するか或は同種類の食物を多く食ひし時は屢々便秘を起す又身体の水分或る原因によりて排泄すると多き時も便秘を起す又日々運動に慣れたる人急に二三日運動を廢すれは之れ亦便秘を起す又諸疾病も之れを起す其他習慣性の便秘を患ふる人あり便秘を患れは腹部に充滿る感あり心氣振はす食欲不良等を來たし腹中に永く止まれる乾燥したる便は腸壁を刺戟して腸加答兒を發し或は終に潰瘍又は腹膜炎を起し或は疝痛の激烈なる爲めに失神に陷ることあり其他百般の疾患を誘因するものあり

斯の如き容体の時は速に醫に乞ひ藥を求めて服用すると肝要なり然れとも習慣性の便秘に至りては平常其症に罹り居るが爲め患者少しも意に止めず困苦堪へがたきに至りて始めて服藥又は醫を訪問するを以て醫も大に惑ひ之れを根治すること能はざるに至る之れに由て患者自ら平常に注意して適宜運動を務め毎朝起床すれば直ちにコップ(水飲用)の一杯の冷水を飲み腹部を按摩すると十乃至十五分時間怠りなく之れを行なへば終に便通佳良となるべし而して尚は無効あれば灌腸を行ひ便通あらしむへし成るべく服藥を避くること肝要なり蓋し服藥も永時經續すれば遂に習慣性となりて無効否有害となることあればなり

記者の勸告するは婦女子も尚は適當の方法を設け身体の運動を行ふべきことなり體操術は單に筋骨營養に益あるのみならず精神の鬱閉を散し愈々體質健全となるの利あり

◉衛生小言

◎第一新鮮ある空氣及ひ日光は人に取りて欠くべからざるものにして恰も飲食物の如し

空氣は通常肉眼にて觀らべからざる氣体なれ共人蓄は此中に生活し何地に行くも身体は空氣より取り圍まれ且身体に存在する總ての孔（耳、目、鼻、口、陰部、肛門）中に進入し鼻口より呼吸に依て肺中に入り肺臟の作用によりて身体に營養となるべき成分を分與す故に人畜に最も貴重の物質なり

吾人は此空氣を使用するに三個の目的を以てす

イ、生活を連續する目的即ち食物の如く空氣中の酸素を肺臟に依て体中に吸収し血液を清淨になし不用の炭酸瓦斯を体外に排泄す

ロ、身体を冷却する目的に使用す例之夏の夕方川端に停立すれば冷風袖を拂ひ心氣爽快を覺ゆ

ハ、吾人の身体より産出する揮發性の排泄物を空氣によりて除去す例之勞動の後身体に汗を生し休息すれは忽ちにして乾くが如し

日光も大切なる物質あり之れなき時は動植物成長する事能はす六合闇黒にして事を便し難きは能く人の知る所あり故に此二者は極要の物体なりとす

◎第二衣服、附屬品、顔面、手足等は不絶清潔を旨とすへし然らざれば不潔より原因する諸疾病を誘起す世間往々之れを放棄する人多し小兒にして顔面、頭部にトビ火などと稱ふる出來物を生し瘡包を爲し膿液を泄らすものを見る之れ等は皆な不潔より來れる腫物あればあり又流行眼病あども其原因は多く不淨なりとす

◎第三毎朝起床の后口中内壁舌及歯を洗除すべし

人は一日三回食物を口中に入る而して咀嚼す此際多少の滓餘（食物の殘りたるもの）歯間に介入す而して之れが腐敗して一種の瓦斯を生じ歯を侵す其他食物に混入せる有機物も亦歯牙に害を及ぼすものなり歯牙の疾患も之れを忽せにすれば終に救ふべからざるの大患となり天然の美貌を失ない食物の美味を感ずること能はざるに至るが故なり

◎第四自身の周圍の不潔を堪ゆる勿れ

自身の周圍とは床、四壁、窓、机、書籍、道具等を示す故に短言すれば日々室を清潔に掃除すべし殊に傳染病流行の際は器物より病毒傳染の恐れあれば一層注意することを肝要なりとす

◎第五仕事並に遊戲の際には身体を運動すべし

身体の運動は最も大切なる事は今更改めて言ふに及ばす即ち食物の消化を助け血液の循環を良くし心氣を爽快ならしむ殊に少女にして唯學問或は遊藝のみ勉强するの輩には務めて運動を勸むること肝要なり然らざれば反て不治の疾病を惹き起すことなればなり

◎第六衣服は余り多く著すなかれ

春夏秋冬適宜に衣服を襲ね頭部は平常冷かに頭は自由に動かすべく足は温かに保つべし古來俗に頭寒足熱と稱ふるは即ち養生法の金言なり頭に布やハンケチを卷くは却て咽喉を弱くするの基をなす故は感冒の外は決して襟卷を纏ふなかれ

◎第七濕氣を含む衣服手袋足袋等を着くるなかれ

濕氣ある衣服等を着すれば身体の熱を奪ふこと甚しく爲めに身体に余計の機能を爲さしめ且つ不快を感し終に感冒を起すに至る

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎第八飲食を適度に行ひ急ぎて食ふなかれ

齒は食物を嚙み碎き胃に入りてより消化せしむる機能を有し唾液も亦食物を丸め滑らになす等の機能を有するものあり然るに急ぎて食すれば良く嚙むことなく唾液も充分に混せすして胃中に入る從て消化に多時を要し胃の運動を長からしむ然らは自然胃の力を徒費せしめ胃病を起し易くす次に格言を示す記憶せらるれば幸甚

○○○○○○○○○○○○○○○

良く咀嚼すれば半ば消化したるものあり

◎第九食事の中途に屢々液体(水等)を飲むなかれ

食物胃中に入れば暫時にして胃液分泌して消然せしむ液体を飲めば此胃液を稀薄ならしめ消化の力を減削すればなり

◎第十強き薬味幷にアルコール飲料を多用するなかれ

薬味とは辛子、胡椒、山椒、生姜、葵等を示す是等は皆な嗜好品にして其物自から身体の營養となるものに非ず主もに他の食物に香味を與へて食を進むるものなれは少量に之れを用ふれは胃の消化力を助くると雖とも多量に食へば胃膓を害す又アルコール強き飲料も直接に胃の内壁を刺戟し間接に脳神經を害し終に不思議の疾病を起すに至るべし

◎乳計に就ての注意

乳計は身体の工合と精神の感動に由りまして其成分と性質とに大なる變化を來たすものでありますから故に小兒に乳を哺する方々や其御両親又は御一家の諸君に一言御話し申し上ます

◎第一精神の感動であります

人の酸きものを見ますれば唾液の出ること激しく

増加致し又悲しき事に逢ひますれば涙液を流し又刺戟を受けますれは怒りまして汗を垂らしますあとは皆精神に感ずるからであります即ち唾腺又は涙腺の機能の急に進むが爲めであります又乳婦の自身の愛兒の顔を視ましたり或は唯其兒の事を考へますと乳房は忽ち充滿致して來るも矢張精神の感動に因りまして乳腺の忽ち張りくるものであります此の如く瑣少の感動に於きましても乳の分泌に變化を起します況してや平常と異なりたる劇しき心痛、憤怒、悲哀、驚愕などの場合にては其感し方も至つて大にして其爲めに乳計は分量を減し其上甚だ稀薄とかく加之有害の性質のものに變じます

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

乳婦の精神甚だ亂れたるときに小兒に乳を與へますれば小兒は強く啼き或は腹痛を覺へ下痢を起し又は搐搦と申して手足を堅く縮め啼き入りて正氣を失なひたる樣に相成り終には死去するに至りましたる一例を申しますれば昔時獨乙國の市府ベルリンの近傍に一人貧なる敎育のなき大工が住ひ居りました此人は一人の小兒を有し甚だ愛して居りました然るに或る日知人の一兵卒か訪問して倶に酒を酌み一言二言の爭ひより終に打ち合ひをなしました夫れが爲めに其妻は非常に心配をなして恰も狂氣の如くになりましたが友人の爲めに和解せられまして漸く事濟となりました其爭ひの間傍らに小兒を置き放ちに致しまして始めて氣が付き大に啼き居りますれば早速抱き上げ乳を哺ませました之れ實に母の其子に盡しましたる最後の情でありまして間もなく小兒は死去致しましたと申します又其他に或る地方に於きまして良人の腦卒中

症にて急に臥し爲めに其妻は非常に感動を致したと見へまして其乳によりて養なはれおりたる兒は終に死亡したる話もあります故に哺乳する方々は其卧君にまれ乳母にまれ平常其精神を安泰に保つことは育兒法の要點であります何卒乳婦を有する良人若くは御兩親又は一家の方々よ決して悲哀憂懼のことを乳婦に聞かしめず成るべく安穩になし其兒の健育を謀る様になされまし世間に屡々其婦のことを顧みず時に之れを叱責し夫れが爲め婦は徒らに心を苦しめ思を勞し其子孫に害を招くを悟らざる輩のありますは實に憐れむべきのことであります

◎第二分娩后の經過の長短であります

出產を致しまして其經過の長きと短きとは乳汁の分泌に取りて大なる關係あるものであります即ち分娩の后一週の間に出づる乳汁は稀薄でありまして其中に含まるゝ乳球（極微小の球にて撿微鏡にて乳汁を覗ますれば見へます）の大さは甚だ不同であります（通常の乳球にも大小不同はありますけれ共總て割合に大小の差は少數であります）其上通例の成分の外に尚は蛋白質よりなりまする粘液と其他大粒の乳球を含み居りまして下痢を起す効能を有して居ります故に俗間に体毒下しなどと申しまして殊更に下劑に用ゆる必要はありませぬ夫れより漸々と一定時を經るに從ひまして乳汁は愈々濃くなるものであります斯の如く乳汁に變化を來たすものでありますから分娩して后養生を良くし其經過を恙なく送りますれば小兒の發育の度に從ひ乳汁も適當の度に變し行くものであります故に婦と同住せらるゝ方々は玆に注意せられて成

るべく不養生の爲め其經過を長くせぬ樣に御心懸が肝要であります

◎第三乳婦の營養の良否であります

乳婦若し營養惡しければ其乳汁の量と成分は共に減ずるのであります凡そ營養物は如何なるものを宜しと云ふに動物性食料は乳汁の成分と其量とに直ちに關係を有せざるやうに思はれます諸君一寸御考へになると全く反對の樣には思召すかも知れませんが田舍に住ひ日常野菜や粉類を食して居りまする乳婦は都會にて多量の肉餌を取りまする者より却て善き多量の乳汁を分泌致しまする事實に由りましても植物性食料の方勝れるものと思はれます然し斯く申しますれば乳婦には植物性の食物のみ與ふれば宜しと言ふが如く聞へますれ共決して左樣なる譯ではありませぬが人々は一擧手一投足と申して一寸身体を動かしましても身体の營養の幾分かを失ふものであります故に之を直ちに補なはねばなりませぬ即ち之れを補ひますには食であります而して人は矢張動物にて肉體でありますから之れの欠乏を補ひするには動物性食料を取るは近頃であります故に適宜に軟き余り脂肪の多からざる肉を食することを忘れてはなりませぬ昔時より人々が乳の出る藥を御求めにあれども世俗に種々の賣藥はありますが醫學士の研究にて今まで特別に乳汁の多く出る藥と申すものは御坐りませぬ唯乳婦の身体營養如何に因りまして乳汁の多寡はあるものと信じます次手に申し上げ置くことは俗に酒は憂を拂ふ玉箒とか又は百藥の長なぞと申しまして乳婦に強て飲ませる者ありますれとも之は大なる誤りであります何となればアルコ

ールを飲みおる飲料は皆な乳汁に痲醉の性質を附くる者でありますから乳婦が此飲料を用ひますると其小兒に不思議の害を釀し終に小兒の身体は衰弱するに至ります又乳婦の飲みましたる藥品は再ひ其乳汁中に現れ來るものであります即ち苦き藥を飲めば其乳汁は苦くなり又下劑を多く服しますれば乳汁は其効を受けて小兒に下痢を發せしむるなどいろ〳〵の事を起します故に乳婦は能く注意して成るべく藥を用ひぬ様自分で養生することが一番であります

◎第四生殖機能も乳汁に關係を及ぼすものであります

月經が始まれば乳汁は其分量を急に減じ其性質は不良となりまして小兒の消化器を害し不安を起します乳婦によりましては分娩致しまして五六ヶ月を經まするど再ひ月經が始まる人があります故に其時には一時乳を與ふることを止めらるべし但し此月經は一回又は二回にて復た休みとなるものでありますから乳汁も以前の如くになります夫れより改めて乳を與ふれば宜しう御座ります然しながら分娩後十ヶ月又は十一ヶ月になりまして月經來りますれば正に來るべき時に來るものでありますれば漸く乳を離すべき時に達したる譯であります故に人工養育にても宜しく生長するを得ます俗に永く乳を飲ますればその子は健康になると思ひ誤りまして長時飲ますする風習がありますが之は母子共に健康を害する基であります又乳を哺ますする時余り早く再び妊娠しますれば乳汁の性質は變じまして薄き初乳となり又其分量を減じます故に前に生れたる小兒には最早與ふることは出來ませぬ之

れに依りて或る醫師の申さるゝには哺乳中全く良人と別室に眠るべしと之は余り苛刻の譏なしとは申されませぬが唯再姙を恐れての論でありまず故に宜しく御心懸けあらまほし又乳婦の疾病殊に熱性の疾は著しく乳汁の量を減しまするものなれば左樣の時には早速小兒より離間さるべし

◉肉の中毒に就きて

瑞西國の醫師ジルベルシユミツト氏の報告に依れば或る獸醫の診察にて感冒の結果腸胃加答兒に罹りて餘義なく屠殺したる子豕の燻肉を煮て食したる后一家七人盡く吐き下し痙攣を起し發熱をなせしが是等の症狀は多く輕くして暫時の后回復し其中唯四歲六ヶ月の小女のみ死亡したり仝氏は此疑がはしき肉の一部分を切り之れを培養器（細菌を生育せしむる器）に採りて細菌の發育如何を撿したるに活潑に運動する細微の杆菌（棒の如き形狀を有する有機物）を發見したり斯の如き杆菌は普通の肉試驗に於て見ざる物なり恐らくに之れが中毒を起したるものならんと考ふと日本に於ても諸種の蕈或は魚肉中毒あるは屢々耳にする處あれば宜しく食物の注意懈るなかれ

◉小兒の入浴に就きて

夫れ皮膚は体溫を調節する作用と一種の呼吸作用とを併有するものにして之れを試驗するに今動物の全身に漆を塗布し全く皮膚の氣孔を閉止したるに其動物身体不安となり呼吸困難を起し痲痺を發し体溫著しく減退し一二日を出でずして斃れたり又人若し全身の表面の三分の二を火傷するときは必ず死す是れ皆な皮膚の呼吸作用を損害するに由て皮膚より排泄有害物其出る道を失ひ体中に蓄

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

積するに原因する者なり蓋し垢は等しく皮孔を閉塞し蒸發を妨く者なれば害を及ぼすこと恰も漆を塗りたるもの或は火傷を爲したるものに異ならざるなり之れに由て皮膚を清潔に保つこと亦緊要なりと謂ふべし而して沐浴は能く垢を脱し之れをして清潔ならしむるの要具たるに止まらず又能く其蒸發を促し血行を進め以て組織の發育を振起し神經を強壯にし寒冒を防くの効あるものとす故に浴後は自ら食慾進み心神爽快となるを以て總て小兒は其本性多くは之を好めり然るに往々之を嫌忌して止まざるものあるは者は何ぞや是れ母親の小兒の皮膚は甚だ薄弱なるを思はずして彼の漸くに堪ふべきが如き高度の温湯に入れ或は其懶惰に由て稀に之を行はしむるが如き不注意に由て遂に之を嫌ふに至らしめしに他ならざるなり

產後直ちに嬰兒を沐浴するは既に普通の習慣となり而して其初め一二回は產婆に之れを依賴するも胎兒の皮脂（產兒の皮面に附着する所の粘滑物）を脱除さしむる爲め脂肪油牛酪若くは鷄卵の如きを其皮面に塗布し以て沐洗するを良しとす若し此際顏面は別に清淨の温湯を以て洗ふべし否らざれば不潔の水湯眼中に入り結膜炎を發するの恐れあるなり而して小兒六七ケ月に至るの間は時候に係はらず毎日一回十分時間列氏二十七度の温湯に入らしむべし但し全身病患にして發熱するものは一時之を廢すべきも局處病の爲めに廢止するは蓋し稀れなりとす既に長じて第一切歯を生ずるに至らば浴湯の温度を低減して列氏二十四度に至らしむべし第二年に至りては冬の間は最早日々なるを要せず一週に三四回列氏二十三四度の温浴を行ひ第

三年に至りては一週二三回にして足るへし但し夏季には毎日ならざるべからず浴湯の温度は必ず寒暖計を以て測るべし是れ手覺に依るときは毎回多少の差異なきを得ざればなり又浴湯を行ふは滿腹の時を避くべし宜しく食后一二時を經て行ふべし然るときは小兒大に飢を訴へ次て就睡するを常とするなり

天候寒く風烈しき日に入浴したれば必らず外出して身体を寒風に曝すなかれ之れ感冒に罹り易くして氣管枝炎を起すの恐れあればなり故に成るべく夜間就床の前に入浴を行ない直ちに臥床するを最も安全の法となすなり

◎妊婦攝生法

抑も妊娠は純然たる生理的の一現象なれば妊婦の健康なるに於ては別に醫療を要せざることは勿論通常の生活即ち飲食起臥操作等總て其常態に渝はらざらんことを要す何となれば世俗誤解に由て妊婦は恰も一の病者の如く思惟し諸事に意を用ふる太だ平生に過ぎ（例へば体の劇動を恐れて懶怠安逸に流れ或は食物の注意に過ぎて無益の食禁をなす等）却て禍を釀成することあり之れ惑へるの甚しきなり故に婦人妊娠するも依然平常の攝養を採り調へ之が更變をなすとあるべからず然れども妊娠時は其内部に於て設令生理的なるも既に許多の變化を起し平常とは大に趣きを異にする所あるを以て偶々些少の攝生を誤ることあるも忽ち不測の害を招き自巳及ひ胎兒を害するに至るべし是れ故に妊娠時は普通の攝生即ち身体を清潔にし新鮮の空氣に呼吸し適宜の運動を行ない飲食起臥に其定則を定むる等は勿論殊に浴湯は低度即ち列

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

氏二十六度を以て極度となし日々之を沐し而して殊に生殖器の洗滌を務むべし心身の過勞例へば諸種の心痛悲哀及び重物を持ち上げ舞蹈走行疾車に乘する等を避け並びに長坐安佚に流るゝなかれ蓋し長坐安佚は妊婦に屢々發する所の血液變調消化不良不眠症等大原因なるにも係はらず反て之を以て妊婦に有益なると誤解する者多し之れ惑へるなり而して其飮食物は其平常の好みに從ふべし富貧各其常食に殊別あるも之を變ずべからず唯た消化惡しき者或は強き香料（芥子、生姜の類）高熱の飮料等を忌まば可なり但し食飮其度を節し決して飽食に至るべからず晩餐に於て最も然りとなす糞尿の便利は妊婦に甚だ緊要なる者なれば必ず定規に之を排出せずんばあるべからず然れども是れ妊婦に於て通常妨けられ易きものなれば時々醫に乞ひ之を調節下泄せしむべし強き下劑は妊婦中嚴に禁ずべきものなり故に茲に輕便を以て其處置を賣藥に托することの危險なるを說くことの贅言あらざるを信ずるなり

衣服は狹小にして起坐に緊迫を覺ゆる者は着すべからず必ずや緩裕にして最も下腹及び足部を温護すべし緜帶は本邦古來の習慣にして之を以て腹部の膨大を防ぐに足るを爲せり之れ大なる誤見なりとす但し數回の妊娠を經て腹部弛緩する者に於てのみ恰好に之を用ふるは妨けなしとす又胸部は強く乳房を壓迫するが如く緊縛するなかれ唯フラチルを木綿巾半分位になし腹部を輕く卷くを良しとす

母親の心識は胎兒の能く之れに感類する者なるを以て妊婦は常に爽快にして正直に居らざるべから

ず故に妊婦悲哀恐怖等の感情を起し若くは邪横の心を有するときは胎兒も亦之れに倣ふものなることを思ふべし又妊婦殊に初妊者は大に難産の畏を懷く者あるも力めて之れを忘るゝべし故に數回の出産を經たる者は分娩の意外に安易なることを說き其畏怖心を破却するに注意すべし

妊娠中乳房の知覺銳敏なることあり然るときは豫て灌水法（イルリガートルと云ふ器械に冷水を充たし乳房に注ぐことなり）にて之を治め分娩後に至り哺乳の刺戟に堪へさることなからしむべし又乳頭の陷没する者は之れを捻り伸すべし但し共に注意を以て行ふべし時ありて之れが爲め收縮を起し墮胎を誘發するの恐れあればなり

妊娠中屢々頑固の嘔吐薦骨部（腰の部分）の疼痛失神齒痛等を發することあり須く醫治を乞ふべし然れとも此等の諸症分娩すれば自から治するを以て輕易にして且つ分娩近きに在る者は敢て醫治を加へざるも妨げなしとす嘗て墮胎の癖ある婦人は妊娠中全く良人と別室を守らざるべからず

◉婦　人　病

◉急性の子宮內膜炎

之は子宮內面を被ふ粘膜の疾患にして屢々外來患者に觀る所のものなり然れとも婦人春期發動期（十五六歲）に至らざれば現出すること稀れなり原因は多く月經時の不攝生（過度の運動身体冷寒等に）由る其他子宮粘膜の刺戟（藥物の注入醫師の手術等）或はコレラ、チフス、痳疹、天然痘、猩紅熱の如き傳染病后又は燐中毒痳疾にて來るものなり

此疾に罹れば初めは惡寒を起し發熱は余り高から

ずして僅かに數日を經過し下腹部に疼痛を感じ腰部を壓せらるゝが如き重き感覺ありて子宮を腹壁より手にて壓し試むれば輕度なる疼痛を知り屢々尿意頻數を來たす

斯の如き最も輕きものは二三日にして熱降り腹部の疼痛止み漸次治に赴くと雖とも他の併發病を有する場合或は起りたる原因の如何によりて危險に陷るもの亦少しとせす

故に右の如き場合に當りては宜しく身体を安靜に保ち緩下劑を用ひ便通を調へ尿意頻數にして數回上厠するも通尿少量なれば炭酸含有飲料（ラム子の如き飲料）を飲むべし又腰部に疼痛甚しければ溫湯に濕潤したる布片を以て腰部を罨法すれば大に堪へうるものなり然して治に赴かざるものは醫治を乞ふべし

◉慢性の子宮內膜

之は急性のもの全く治に赴かざるもの終に慢性に變ず又子宮の血行に障害を來たすべき時に起り其他手淫等總て刺戟に因し又產后の不攝生或は流產の結果に於て發ずるものなり而して其症狀は第一水樣液の分泌或は甚しきに至りては膿液の分泌を漏らし時とすれば血液を混ずることあり或は下血を來たし腹部腰部に疼痛を覺ゆ然して此疼痛は一定の時間を以て來らず全く不規則にして乍ち痛み暫時にして去るの性質を有す又每月月經時に當り粘膜の破切したるもの血液と共に下るを多しとす而して患者は容易く怒り或は鬱する等の精神變調を發し神經の疾患を起すに至る斯の如くにして之れを放擲すれば全く不治の症となり終に救ふべからざるを以て宜しく速に專門醫の診察を受

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

け治療を怠るべからざるなり

新潟支會記事

講演

◉歯石

講師　中村勇三郎君

余や久しく諸君に面陳せず講師として怠慢の罪免る可らずと雖とも亦た止むを得ざるの事あるに依る諸君　幸に之を諒せよ

今日は歯石と申す者に就て聊か講話せん抑も歯石とは俗に歯垢と稱するものにして大人小兒の別なく齲歯等の障害に依り咀嚼を禁廢し或は平素口中の掃除を怠り自然不潔に陷るときは歯石の沈着を免れざるものなり

而して其性質は炭酸石灰燐酸石灰纖維素脂肪動物質及食物滓渣等なり

凡て歯石に硬きものあり或は柔かなるあり亦粘液素等の附着に依て綠色又は茶褐色等のものあり

此の歯石は（實物を示す）恰も水を煮るに湯垢の釜底に沈澱するか如く口内津唾中の土質分を沈澱して歯牙に附着す其集積する重力に因りて歯根と齦肉との間に沈着し以て歯石を結成するに至るものなり

歯石の多く附着する所は唾管閉口（圖を描きて示す）の近傍及び食物咀嚼の摩擦を受けさる部にして即上顎臼歯の頰面（即ち歯牙の外面）及下顎前歯の舌對面（即ち內面）に附着し夜間睡眠中頰唇舌等の運動休止するとき殊に沈着するものとす

歯石堆積するときは口内に一種の惡臭を放ち齦歯

は歯石の刺戟に依り充血して膿血を漏洩し口内益々不潔となり歯牙は動揺浮遊し遂に脱落せしむるの慘狀を呈し又口内の惡臭は呼吸と共に肺部に浸入し遂に不測の病患を醸すに至る且つ此の汚物は食物と共に胃中に入るを以て縱令新鮮の食物を喫するも食物は恐らく之か爲めに不潔となり折角の滋養物も其効を減耗すること少なからず尙は之れが爲め生する所の害毒を數ふれば僅少の時間には述へ盡し難きにつき其の一班を擧けて止まんのみ

然るに前述の如き害毒あるに拘はらず世人概ね之を輕視し甚たしきに至ては歯石は歯牙をして堅牢に固定ならしむる者なりと信し故らに之を除去せさるものあり

又小兒にありては其父母たるものゝ歯牙の保護法を等閑にせず爲めに口中の掃除を敎えす小兒自ら是を行ふものあれば小兒中歯牙を磨けば爲めに虛隙を生して惡しゝと又は單に生意氣なりとて是を叱責し不識不知健康歯をして病歯に陥らしむる如きこと往々是れあり實に慨歎の至りに堪へさるなり小兒の歯牙は大人に比すれば甚た軟弱なり故に殊に注意せずんば忽ち齲歯を生し歯石堆積して歯齦を潰爛し咀嚼を充分する能はずして遂に消化を害し胃弱を來し身体の發育を妨害し遂に体格不合格の境界に陥るなり是皆衛生の注意足らさるより起因するものにして實に恐る可きなり又縱令乳歯たりと雖とも硬軟の食物を咬斷咀嚼するの能力を有するが故に僅に歯牙を磨く刺戟に依り虛隙を生するものに非らず故に可及的掃除するを尤も良しとす

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

今此の危害を免れんと欲せは歯石堆積せさる樣注意するに外なし左に其方法の概畧を述へん

(一)一日に是非共二回懇に掃除をなすべし即ち早起后一回又既に寐に就く前に一回

(二)食后は小揚子を以て懇に歯間挿入せる汚物を除去し微温湯を以て含嗽し片布を指頭に纏ひ内外を摩擦すべし

(三)煙草を喫する人は殊更に注意せざれば烟脂の附着するに依り歯面粗糙となり歯石を附着し易からしむる誘因なり 須く注意を要す

(四)涅歯(おはくろをつけたる歯)は世人の知らるゝ如く歯牙を磨くときは忽ち剥剝するを恐るゝが故に從て掃除を怠り歯石の沈着するも是を發見し難く遂に增積して亦救ふ可からさる難症に陷り歯牙を脫落せしむるに至り或は僅微なる齲歯其他の弱点等あるも醫師すら是を發見するに苦む程なるか故に素人に於ても殊に發見し難きを以て染歯することは嚴禁するを要す

(五)歯牙を磨くには必す磨歯粉を選用せさる可からず而して磨歯粉は極めて緻密なるものにして津唾に依て容易に溶解し多く砂石粉を混和せざるを良しとす又揚子は護謨製木製等あれとも普通西洋揚子と稱する刷毛を良しとす而して歯の磨き方は歯の外面に横に内面の前部は縦に臼歯即ち奥に至るに從ひ斜縦形に磨くを良しとす (尚諸氏の講演は次號に揭ぐ)

◉大日本婦人衛生會新潟支會

當市婦人衛生會は昨日午後一時より西堀通六番町淨泉寺に於て開會せり出席會員四十餘名にて第一席中村勇三郎(歯石に就て)第二席高橋辰五郎

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(初生兒の口筋痙攣、胎兒の生成)第三席賛成員伊野宮貢(疫癘は最優等の生活物たる吾人々類と最劣等の生活物たる疫毒との生存競爭に外ならず豈に人類を以て疫毒を克制し得べからざるの理あらんや)第四席長谷川詮一(種痘前後の取扱、容体法)等交々鄭寧詳細講話せり右終て淺田醫學士は出席會員に種痘を勸誘し長谷川醫學士一々種痘を施して散會せりといふ

◎新潟支會の無料種痘

大日本婦人衛生會新潟支會にては此度種痘の普及を計らん爲め無料施行劵を發行し貧窮の者に限り之を施與する筈にて同劵希望者は新潟、東北、自由三新聞社、淺田病院、高橋醫院、中村歯科醫院、上旭町一番町中野悦子、同澤田友子、學校町二番町大嶋織兒子の三幹事へ申込み同施行劵を得て新潟病院若くは若杉病院及田代醫院に到れば直に施行すべしと云ふ尚右に付左の通施行種痘に就きて報告書を發したりといふ

拜啓此度天然痘流行致候に付種痘普及の必要有之依之本會は一般貧民の爲め無代價種痘施行致候間施行劵御廻申上候貧困の人々等にて種痘希望致居候もの御座候はば此劵御附與被成下度候左記之箇所に於て毎日午前限り施行致し若又施行劵更に御入用に候はば上旭町一番町中野悦子同町澤田友子學校町二番町大島織兒子礎町淺田醫院西堀通中村歯科醫院大畑町高橋婦人科醫院迄御請求被成下度候早々以上

三月廿三日　大日本婦人衛生會

新潟支會

殿

種痘施行所

一醫學町　新潟病院
一上大川前通　若杉病院
一本町十一番町　田代醫院

大日本婦人衛生會記事

◉總會

三月六日麹町區内山下町華族會館に於て總會を開きしか第一席醫學博士坪井次郎君の生理解剖學講義あり當日は人体生理圖及人腦の摸形等を示し腦の發育腦神經催眠術等に説き及ぼされしが特に尤も奇異に感せしは蛙兎鷄等に催眠術を施せしこと是あり蛙及鷄の如きは一旦催眠術を施すときは不思議にも靜止して昏睡に陷り呼吸の有樣等變じ少しの動搖にてはよく攪眠することなし然れ共兎の如きも亦よく催眠術を施し得べしと雖も前二者に比して感じ少しく薄きが如しと雖ども只其睡眠の長短如何にあるのみなりき次にドクトル新井古芳君には懇切に婦人病豫防法を講演せられたり

此際會場に於て役員改選を擧行し本會半年度收支決算事務報告等は一々掲示して會員に示せり右終り茶菓の接待ありて一同散會を告けしは午後四時半頃なりき

役員改撰の結果は左の如く左に列記の諸氏は皆々承諾せられしが評議員中尚二名は目下照會中ありとす

會長　子爵夫人　仁禮壽賀子

副會長　濱尾作子

幹事　鳩山春子
仝　高木鐐子
仝　宮下咲子
仝　三浦敎子
仝　北澤信子
仝　穗積歌子
仝　松平芳子

評議員　男爵夫人　岩崎早苗子
仝　西升子
仝　男爵夫人　西靜子
仝　緒方悅子
仝　男爵夫人　南部隈子
仝　濱田拾子
仝　中濱芳子
仝　丹波貞子
仝　岡田德子
仝　馬渡玉子
仝　中橋悅子
仝　宮本樂子
仝　羽田三緒子
仝　木內磯路子
仝　三井晴子
仝　坪井國子
仝　男爵夫人　田中いよ子
仝　齋藤春子

廣告

大日本婦人衛生會
半年度會計報告（自明治廿九年九月 至明治三十年二月）

收入之部

一金參百八拾參圓七拾六錢貳厘　總收入

內譯

金壹圓五拾壹錢貳厘　前年度操越高
金參拾圓　終身會費
金貳圓五拾錢　寄附金

金拾七圓五拾錢　定期預利子
金參百參拾貳圓貳拾五錢　會費集高

支出之部

一金參百五拾五圓參拾八錢貳厘

內譯

金百參拾圓拾七錢八厘　雜誌印刷料
金拾壹圓六拾錢　諸印刷料
金拾四圓　速記料
金參圓七拾錢　切拔通信料
金參拾圓　事務員給料
金參拾四圓　雜誌編輯料
金六圓五錢　會場費
金貳拾七圓參拾錢九厘　會費雜誌通知集配手當
金拾五圓拾七錢　郵稅
金拾貳圓八拾六錢　端書
金四圓六拾貳錢六厘　臨時費
金貳拾六圓〇七錢　謝禮
金六圓八拾參錢五厘　筆墨紙料
金貳拾五錢　電話料
金五圓五拾錢　器具料
金五圓拾錢　總會入費
金六圓貳拾四錢　初會入費
金拾五圓八拾九錢四厘　雜費

收支決算

一金貳拾八圓參拾八錢　殘餘金

本會財產調

一金四百〇參圓六拾貳錢六厘　現在總高

內

金參百五拾圓　三井銀行定期預金
金貳拾五圓貳拾四錢六厘　同當座預金
金貳拾八圓參拾八錢　殘餘金

現在會員數

一現在總會員數　八百九拾五人

內譯

府下終身會員　拾七人

地方終身會員　六人
府下特別會員　貳拾九人
地方特別會員　參人
府下贊成員　四拾九人
地方贊成員　拾四人
府下通常會員　四百七拾壹人
地方通常會員　百五拾人
千葉支會々員　五拾六人
新潟支會々員　百人

雜誌寄送數

◎大日本私立衛生會雜誌　六册　大日本私立衛生會
◎細菌學雜誌　三册　會員吉澤まさ子寄送
◎埼玉衛生雜誌　六册　大日本衛生會埼玉支會
◎三重衛生雜誌　仝三重私立衛生會
◎藥石新報　六ヶ月分　藥石新報社
◎中外藥報　一册　中外藥報社
◎衛生寶鑰　三河滋善堂
◎婦人新報　婦人新報社
◎越佐教育雜誌　六册　越佐教育雜誌社
◎光　光雜誌社

入會者

○自二月至三月本會入會者左の如し
○新潟市會へ申込に依り
新潟市上大川前通六番町　松浦とう子
上大川前通八番町　松浦ひさ子
仝東仲通り一番町　片桐つぐ子
仝下旭町通二番町　木村ぎん子
仝上大川前通八番町　鈴木つね子
仝學校町通二番町十九番戸　市岡みね子
○濱尾作子の紹介に依り
小石川久堅町二十二番地　杉浦久壽猪子
○磯部曾代子の紹介に依り
芝區田町八丁目七番地　磯部鍬子
○山田久米子の紹介に依り
荏原郡下大崎村字神ヶ崎島津邸內　松元照子

○河田政子の紹介に依り
本郷區第一醫院　原島たま子
○松永とし子の紹介に依り
日本赤十字社病院內　服部たま子
　　　　　　　　　　水野けい子
○事務所へ申込に依り
本郷元町二丁目四十七番地　古田はつ子
○榊幸子の紹介に依り
本郷森川町一番地　玉生くに子
○兼子きみ子の紹介に依り
本郷區第一病院內　向井とく子
　　　　　　　　　大木せん子

轉居者

神田區南神保町十二番地へ　秋間たい子
牛込區東五軒町四十四番地へ　高木かう子
下谷御徒町二丁目四十六番地　青木すみ子
麴町區麴町七丁目二十番地へ　千田米子
廣島縣吳莊山田村三津田八百十九番次三番屋敷へ　清水ふき子
京都市上京區丸太町通堺町東に入るへ　眞水さた子
京橋區靈岸島町四番地中村勇次郎方へ　谷千代子
赤坂新町五丁目三十七番地へ　牧野清子

○正誤

◎前號（八拾七號）雜誌に於て本會々長より　両陛下への御機嫌伺ひの記事中「謹みて天機を伺ひ奉る」及「謹みて御機嫌を伺ひ奉る」とせしは別行とあし左の通りになすべきを誤植致候に付此段正誤す

謹みて　天機を伺ひ奉る
又一通は
謹みて　御機嫌を伺ひ奉る

前號記載新潟支會入會者姓名中早川はる子とあるは早川花子の誤り

私立大日本婦人衛生會規則

第一條 凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

第二條 本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條 本會の會員たらんと欲する者は身分の尊卑を問はず何人にても入會することを得

第四條 本會々員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し
但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

第五條 本會々員を分て修身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす
但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中書生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

第六條 男子にして本會の主義を贊成する者は之を贊成員とす尤も會費は本會員に同し
但本會に功勞ある者は役員の協議を以て終身贊成會員(無會費)とすることある可し

第七條 本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉す推戴員は皇族の御息所等に之を申請するものとす

第八條 本會は左の役員を置く 會長一名 副會長一名 幹事七名 評議員二十名 書記若干名

第九條 會長副會長及幹事評議員は會員の投票を以て之を撰擧し書記は幹事の推撰により會長之を命ず
但書記は都合により會員外の婦人又は男子に托することあるべし

第十條 會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し又は其代理をなし幹事は會長の命を受けて會務を處理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命に從て諸記錄及雜務を掌る
但幹事の分課を設けて 第一會計 第二編輯出版 第三庶務とす

第十一條 會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に指名委員を置くことあるべし

第十二條 會長副會長及幹事評議員の任期は一年とす尤も再撰するも妨げなし

第十三條 會長副會長及幹事評議員は無給料とし書記は相當の報酬を給す

第十四條 本會の集會は七月八月を除くの外毎月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

第十五條 每會學識經驗ある者を聘し講義演說を囑し本會々員の演說と共に之を筆記して本會雜誌に揭載し每月各一冊つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす
但し演說の間に談話を交ゆる事あるべし

第十六條 會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむることを得

第十七條 講義演說の際男子の傍聽を禁ず
但會員に緣故ある男子は此限にあらず

第十八條 本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす
但些少の金額は日々の費用支出の爲め事

明治二十一年二月二十八日內務省許可

務所に引出置を得

第十九條　會計の收支は總て會計課幹事の撿印を要す

第二十條　會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

第廿一條　會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しある可し但不得止場合には郵便劵を代用するも妨けなし尤も一割增とす

第廿二條　入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便劵二錢を添ふ可し

第廿三條　每年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略幷に會員の增減等を報告す可し且規則改正の案あれば之を議定するものとす尤も議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す

但至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すことを得

第廿四條　三月の總會に於て役員の撰擧をなすものとす

第廿五條　規則の範圍內に於て役員の評議を以て會細則を設くることを得

第廿六條　各地方にて發起者十人以上ある者は支を設くることを得

但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經へし

第廿七條　本會の集會場は時々報知する者とす

第廿八條　會費金は受領證を付與すべし尤も小爲替又は郵便劵にて納むる者は右受領證遞送費として郵劵二錢を添ふべし然らざれば受領證は送付せざるものとす

明治二十五年九月

東京下谷區練塀町四十三番地

私立　大日本婦人衞生會

明治三十年三月十八日印刷
明治三十年三月二十日發行

發行所　東京下谷區練塀町四十三番地　大日本私立婦人衞生會

編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中德三郎

印刷者　同　神田區小柳町十三番地　小高良造

印刷所　同　神田旅籠町貳丁目拾一番地　廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可毎月二十日發行

（定價金拾錢）